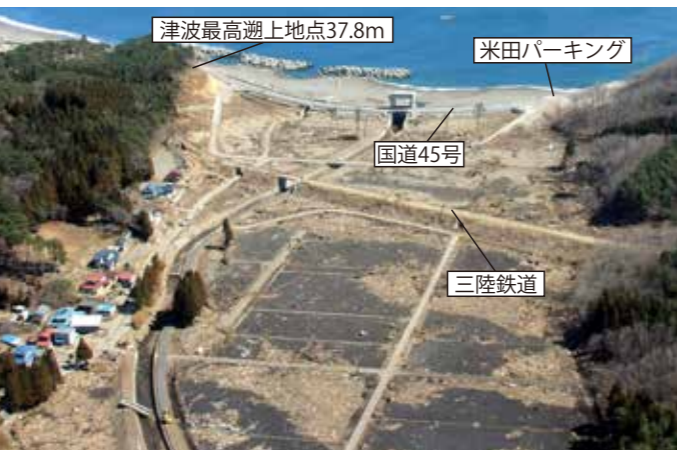


1 城内・泉沢地区



村の中でもっとも家屋が集中していた城内地区は、村役場、総合センター、体育館等の行政機能や商業施設がコンパクトに集積し、村の市街地を形成してきた。この地区は村で一番の被害があり、北区・愛宕町・横町・門前小路・前田小路・本町・旭町で371戸が全半壊するなど壊滅的な被害。泉沢地区で33戸が全半壊した。

2 米田・南浜地区



米田地区は、名勝である十府ヶ浦海岸があり、国道45号沿いに飲食店、米田川沿いでは農業、海では水産業と多様な業種を生業としてきた。防潮堤を兼ねた国道45号を津波が越え、村の津波最高潮上高37.8mを観測。海岸近くの20戸が全半壊の被害、また南浜地区でも全半壊28戸の被害を受けた。

3 玉川・下安家地区



玉川・下安家地区は、玉川漁港や下安家漁港を中心としたさけますふ化場など水産業が大きく被害を受け、また18戸が全半壊となった。また、この地区では道路被害も大きく、安家川にかかる村道橋が流失し、地域が分断された。また国道45号や一般県道安家玉川線などが通行止となった。

4 新山・中沢地区



新山地区では12mの防波堤が持ちこたえ、海岸近くの数世帯や田畑への被害はあったものの、家屋被害は比較的少なかった。しかしながら、公共下水道や新山農業集落排水等の下水処理施設が被害を受け、村の多くの地域で下水道が利用できなくなるなどの被害を受けた。また、中沢地区では4戸が全壊した。

岩手・野田村 震災の記憶

製作 野田村観光協会・野田村
平成27年7月版



平成23年3月11日 14時46分頃、岩手県野田村は、東日本大震災により震度5弱を記録し、その後の約45分後に第1波～3波と最大約18mの津波が来襲、本村の住家約1/3が被害を受けるとともに、漁業や商工業などに甚大な被害を受けました。
死者は37人（うち村内死亡者28人、行方不明者数：0）、負傷者は17人におよび、建物流出又は全壊311棟、大規模半壊136棟、半壊32棟、一部破損36棟の合計515棟が被害を受けました。
かけがえのない尊い生命と貴重な財産を奪われるとともに、本村の中心部にある商店街や住まい、働く場、交通網、漁港など広範囲にわたり壊滅的な被害を受け、社会経済活動に甚大な被害をもたらしました。

東日本大震災浸水区域

- 食室、宿泊施設
- 土産店・商店、観光施設
- 公共施設 他
- ★ 復興事業
- 集合仮設店舗
- 応急仮設住宅
- × 跡地

津波で流されなかった東屋

三陸鉄道について
平成23年4月、被災した陸中野田～田野畑間を復旧。その後、平成26年4月までに北リアス線・南リアス線の全線で復旧した。

0193-62-8900



主な公共施設の被害

● 庁舎等	床上浸水：役場庁舎
● 社会教育施設	大規模半壊：生涯学習センター（兼図書館） 半壊：総合センター
● 保健医療施設	全壊：保健センター、診療所施設
● 老人福祉施設	全壊：グループホーム
● 児童福祉施設	全壊：野田村保育所
● 住宅	全壊：旭町住宅 大規模半壊：泉沢住宅
● 消防施設	全壊：3カ所/床上浸水：1カ所

復旧

復旧期 平成23年度～平成25年度 3年間



愛宕参道広場大鳥居・震災直後
津波でがれきが押し寄せた中心地
(平成23年3月12日撮影)



震災から約3年半後
(平成26年9月 同場所から撮影)



野田港・震災直後
破壊された野田港。漁船・漁具をはじめ、市場やのだ塩工房も流された。
(平成23年3月11日撮影)



がれき
村内8カ所に集められた震災がれきの山。推計量16万7千トン。
(平成23年6月撮影)



下安家ふ化場・震災直後
安家川にかかる橋が流失し、さけますふ化場は津波に飲み込まれた。
(平成23年3月12日撮影)



3年半後
市場や養殖施設などほとんどが復旧し、のだ塩工房も下安家地区の高台に移築した。
(平成26年9月 同場所から撮影)



3年半後
広域処理も進められ、平成25年度末までに処理が完了した。
(平成26年9月 同場所から撮影)



3年半後
下安家漁協並びにさけますふ化場は同年11月に復旧工事が完了した。
(平成26年9月 同場所から撮影)



支援物資
全国から届いた支援物資でいっぱいになった野田村体育館
(平成23年3月28日撮影)



ボランティア
災害ボランティアは平成26年2月までに累計2万5千人を超えた。



応急仮設住宅
平成23年7月までに、村内の5カ所・213戸(野田中学校グラウンドで128戸)の応急仮設住宅が建設された。

復興

復興期 平成24年度～平成27年度 4年間
発展期 平成26年度～平成32年度 7年間



安全・安心で活力あるむらづくり



防災集団移転促進事業

●防災集団移転促進事業は平成23～27年度を予定しており、高台移転は城内、南浜・米田の、約100世帯規模となります。

城内地区 高台造成地



新たな防潮堤の建設

●津波防災施設等は、防潮堤(海拔14m)、防潮林・三陸鉄道北リアス線・国道45号(海拔7.8m)、盛土(海拔8m～12m)で安全性を高めます。



地層が語る津波の足跡

太平洋に面する野田村は過去幾度も大きな津波災害に見舞われてきました。それは人類が誕生するより遙か以前からでした。震災後、野田村内の海岸域に露頭する地層(津波堆積物)に、7000年の間に13回もの津波の地層が確認されました。平均すると、約500年に一度は若手県沿岸に巨大津波が押し寄せてきたことになります。しかしこれはあくまで巨大津波であり、最近の約100年の間に5回も津波が発生しています。いずれも、同じ間隔で来るわけではないので、いつ起こるかはわかりません。油断せず、日頃から備えておきましょう。

←白っぽい部分は大噴火で十和田から飛んできた火山灰で、これが5400年前という目安になります。上部には西暦869年の大地震「貞観(じょうがん)地震」の跡とみられる地層も確認されています。

最近約100年間の被害の大きかった津波

発生年	発生日時	津波の名前	死・不明	本村被害	備考
明治29年(1896)	6/15	明治三陸津波	21,959人	死者261人 138戸	M8.2 近地津波
昭和8年(1933)	3/3	昭和三陸津波	3,064人	死者6人 58戸	M8.1 近地津波
昭和35年(1960)	5/23	チリ地震津波	142人	死者なし 20数棟	Mw 9.5 遠地津波
昭和43年(1968)	5/16	十勝沖地震津波	52人	死者なし 0戸	M7.9 近地津波
平成6年(1994)	12/28	三陸はるか沖地震津波	3人	死者なし 1戸	M7.5 近地津波

*気象庁データによる(本村被害は野田村誌による)



津波からの安全な避難

東日本大震災の際、野田村保育所では地震後ただちに避難をはじめ、避難場所に到着した後もより高い場所へ避難し、園舎が流失しながらも園児と先生方など約90名全員が津波から身を守ることができました。

ひとりひとりが自分の命を守るために、**てんでんばらばら**にでも高台へ避難するよう、日頃から備えておくことが大切です。(津波てんでんこ) そのことが、周りの人の命を救うことにも繋がります。



新しい園舎でも避難訓練が続けられています

野田村役場

<http://www.vill.noda.iwate.jp/>

- 震災復旧・復興についてのお問合せ等
野田村役場 TEL: 0194-78-2111
- 観光・野田村観光パンフレットの資料請求等
野田村役場 産業振興課 TEL: 0194-78-2926

野田村観光協会

<http://www.noda-kanko.com/>

- 震災ガイドについてのお問合せ等
野田村観光協会 TEL: 0194-78-2012

野田村のキャラクターのんちゃん
鮭の稚魚

